

学校教育目標		一生懸命がすばらしい～夢と志を抱き、仲間とともに主体的に生きる子どもの育成～	
a ミッション	<組織（学校）が存在する理由> ●子ども達にグローバル社会を主体的に生きる力を身に付けさせる学校 ●グローバル社会を生き抜くために教師に必要な専門性と人間性を向上させる学校 ●地域社会に文化を発信する学校（オンリーワン ナンバーワン おらが学校）	a ビジョン	組織全体が今後目指す姿（めざすイメージ） ●夢や志を抱き、自己肯定感を持って仲間と力を合わせて課題解決ができる子ども ●生徒の夢の実現を後押しできる専門性と人間性を兼ね備えた教師 ●生徒・保護者・地域が自慢したくなる誇りたくなる学校 ●広島版「学びの革新」アクション・プランに基づく、生徒が主体的に学ぶ授業

評価計画					自己評価				学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明			k 二次評価 イ ロ ハ	l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値								
グローバル社会を生き抜く力の育成 夢と志を抱き、目標に向かって全力で取り組みその達成を素直に喜び合える子どもを育てる（志 一生懸命がすばらしい 感動） 【自主的・主体的な活動を通して、生徒の主体性を育成する】	【豊かな心の育成】 目標を持ち一生懸命（主体的・協力的）に活動する生徒を育てる 思いやりを持ち自他を大切に育てる	①目標を持たせ、努力や挑戦をしている、一生懸命に頑張っている生徒を評価する。 ②日頃から主体的な活動を仕組むとともに、お互いに協力し、相手を思いやる生徒を育てる。 ③人の話や発表を静かに聴かせる。 ④あいさつ運動を充実させ、気持ちのよいあいさつができる生徒を育てる。	①一生懸命に取り組んでいるものがある生徒の割合 ②日頃の活動や体育大会・文化祭で主体的・協力的に行動ができる生徒の割合 ③人の話や発表を静かに聴いている生徒の割合 ④自分から大きな声（相手が聞こえる声）で気持ちよくあいさつをしている生徒の割合	① 90%以上 ② 80%以上 ③ 85%以上 ④ 90%以上	①86.3% ②88.2% ③85.2% ④73.1%		83.2%	B	①生徒アンケートでは、「一生懸命に取り組んでいるものがあります」と肯定的に回答した生徒は86.3%である。一生懸命に取り組んでいるものを可視化するとともに、目標を設定させ、評価する必要がある。 ②生徒アンケートでは、「日頃の活動や行事（体育大会や文化祭など）で自主的・協力的に行動できています」と肯定的に回答した生徒は88.2%である。 ③生徒アンケートでは、「人の話や発表を静かに真剣に聴いています」と肯定的に回答した生徒は85.2%である。集会では落ち着いて話を聞いている姿が見られる。授業では切り替えができて、私語がある場合がある。他者の話から何か吸収することや話を聞くことで相手を大切にするという意識を持たせる必要がある。 ④生徒アンケートでは、「自分から大きな声（相手に聞こえる声）で、気持ちよくあいさつをしています」と肯定的に回答した生徒は73.1%である。生徒会と栗原中学校のあいさつの現状を整理し、生徒が目指すあいさつの姿を3つのレベルにまとめた。生徒会と協力して生徒全体に周知し、全員がレベルBのあいさつができることを目指している。毎週火曜日のあいさつ運動も昨年度より活発になっている。年度初めに比べ、あいさつができる生徒が増えたことを日々の生活で感じている。	3		・将来なりたいものがありそれに向けて一生懸命に取り組んでいくのが理想かも知れませんが、現実にはなりたいものがない、わからないという方が大勢いると思います。今一生懸命に取り組んでいるものを可視化し、評価してあげることで将来の目標を見つけることにつながれば生徒も大きく伸びると思います。 ・生徒による主体的、協力的な活動が、人格形成に繋がっていると思います。体育大会で一生懸命頑張っている生徒をたくさん見せていただきました。	①学習面や生活面において、生徒が一生懸命に取り組んでいくことを決めさせて、それを掲示する。ふりかえりや自己評価等も行うことで継続的に意識を持たせる。 ②授業や日頃の活動において、生徒が主体的に取り組める活動を現在より多く仕組んでいく。目的や目標を明確にして、達成に向けて協力して取り組むことを重視して指導する。 ③授業においては書く・見る・話す・聞くなどの活動をしっかり区別し、その都度適切な姿勢をつくらせる。特に中間の発表を静かに真剣に聞かせ、中間の発表から学び、仲間を大切に作る雰囲気づくりを進める。 ④集会であいさつの現状を生徒に周知し、課題意識をもたせる。教職員が見本となるために率先してあいさつをするとともに、生徒のあいさつに対して、その場で肯定的な評価を行う。毎週火曜日のあいさつ運動の参加率を上げより活発にさせる。	
	【学力の向上】 意欲を持ち、学習に主体的に取り組む生徒を育てる	①HR学習として「視写」を行う。 ②課題発見・解決学習を通して主体的に学習に取り組ませる。 ③自己肯定感・達成感を持たせる授業改善を行う。	①視写をした内容について記述できる生徒 ②記述式問題における無答率とB判定以上の生徒の割合 ③自己肯定感に関する生徒アンケートの肯定的回答	① 80%以上 ② 8%以下 ③ 60%以上 ④ 80%以上	①58.8% ②未実施 ③67.4%			C	①週2日、朝のHRを使い、読解力の向上および授業の基盤づくりとして取組を継続中。今年度は、文章の視写とその内容についての記述に焦点化した。視写に取り組む生徒は93%と、全員での取組に近づいたものの、視写した内容について感想等を書く欄への記入にまで取り組める生徒は約割である。学期間にも取組に差があるので、ペナルチを揃えて継続的に行っていく。②未実施。9月に行う授業公開に向けて校内研修を行い、各自が作成した課題発見・解決学習を2学期に行うので、その結果を記述式問題で評価する予定である。③アンケートへの肯定的回答は、学年別に見ると1学年67.0%、2学年70.2%、3学年65.0%である。研究部では、自己肯定感を高める指導として、校内研修で実践交流を行うなどした結果、別の生徒アンケート「先生は授業でがんばったことを認めてくれる」の肯定的評価は、全教科平均で82.5%であったが、生徒の自己肯定感目標値を下回っている。教職員の意識統一はなされつつあるので、2学期の実践を充実させたい。	3		・入試の記述式問題に対応するため2、3年前から始めた記憶していますが成果が出ることを期待しています。 ・学力的には全体的にレベルアップが必要。視写等学力向上に繋がる施策を一步一步確実に進めてください。 ・現在準備されていること、対応を考えられていることの実施によって成果が得られることを期待しています。	・自己肯定感の向上のためには、授業の中で、全員が参加でき、認められる「居場所のある授業」づくりに向けて、生徒への肯定的な評価を継続しながらも、授業のユニバーサルデザイン化を目指し、どの生徒も置いていかない指導を推進する。また、文化祭、球技大会といった行事においても、達成感や肯定感を得られるよう働きかけを行う。	
	【魅力的な学校づくりの推進】 生徒が栗原中学校に誇りを持ち、地域や保護者から信頼される学校づくりを行う。	①小学生やその保護者が、本校に魅力を感じるようにする。 ②ホームページの更新を定期的に行い、学校の情報を積極的に発信する。 ③本校の生徒や保護者に対するアンケートを行う。	①校区内の小学校から本校へ進学する生徒の割合 ②更新する頻度 ③（生徒）「自分の学校には自慢できることがあります。」の割合（保護者）「栗原中学校は信頼できる。」の割合	① 95%以上 ② 月1回実施 ③（生徒）75%以上（保護者）75%以上	①未実施 ②30% ③（生徒）74.0%（保護者）67.8%			B	①については未実施。②については、参観日、体育大会などの情報を積極的にホームページにアップし、4～8月の5ヶ月間に15回更新した。2学期以降も引き続き、学校の様子をホームページで公開していきたい。③の生徒アンケートについては、肯定的な評価が74%で部活動で入賞していること、礼儀正しくあいさつができてきているなどの意見があった。しかし、一方で否定的な評価が約17%となっており、全校集会や学年集会など日頃の生徒の頑張りを誉めたり、認めたりすることで栗原中学校で頑張ってきたと自慢できるようにしていきたい。③の保護者アンケートについては、肯定的な評価が約68%、否定的な意見と判断できないという割合がどちらも約17%となっていた。ホームページや学校から出す便りなどを通して、情報を積極的に保護者に伝えるだけでなく、発信していることをもっと周知していきたい。	3		・過去にも校区外の中学校へ多くの生徒が転出した年がありました。その時の理由は学級崩壊しているクラスが小学校にあり中学で一緒にいる事への保護者の不安でした。その時の中学校はあれ程無事なく落ち着いた学校でした。保護者間の話には根拠のないうわさ話もたくさんあります。今後も小中連携を一層進められ、三校の連携をより緊密にされることを期待しています。 ・新たに目標として掲げられたことは素晴らしいと思います。地域や保護者から信頼される学校づくりに期待します。	・魅力的な学校づくりのためには、生徒自ら一生懸命になれる活動を仕組むだけでなく、教職員もこの目標を達成するために一丸となり、組織として取り組みを行う。 ・栗原中学校での日々の様子は、定期的に学校だよりやホームページで積極的に発信する。また、しっかりと発信していることを本校の保護者や各小中学校の保護者に向けてアピールしていく。教職員や生徒会や児童会との小中連携のときにしっかりと宣伝する。 ・生徒の意識を高くするために、全校集会では良い所をしっかりと誉め、生徒全員が学校の見本となる行動ができるようになるように仕向ける。	

【自己評価 評価】  
 A: 100≦(目標達成)  
 C: 60≦(もう少し) <80  
 B: 80≦(ほぼ達成) <100  
 D: (できていない) <60  
 【外部評価】 イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。 ハ:わからない。